

〈解答〉

- ① 1 ア
2 ウ
3 〔例〕 No, they didn't.
4 〔例〕 長い時間歩くことは彼にとって難しかった (19字)
5 (a) 〔例〕 I think (that) we have to [must] think about people around us.
(b) 〔例〕 Please let me know when you need my help. [When you need my help, please let me know.]

配点 1, 2 は各 1 点, 他は各 2 点 10点満点

〈解説〉

① 〈長文和訳〉

今年の 8 月, 弟の和也と僕は鹿児島島の祖母の家に行きました。毎年夏に僕の家族はそこへ行って一週間くらい滞在しますが, 今年の夏は和也と僕だけが行きました。父と母は働かなければならなかったので, 長い休みをとることができませんでした。和也と僕は両親がいなくても祖母の家に行けると思っていたので, 何も心配していませんでした。和也は「おばあちゃんの家近くにあるあの川にまた行きたいな」と言いました。「僕もだよ。去年, 和也はそこで大きな魚を A 捕まえた よね。あれは楽しかったな」と僕は言いました。僕たちは旅行を楽しみにしていました。

旅行の直前に, バasketボールをしているとき, 僕は脚をけがしました。そのけがはそれほど深刻ではありませんでしたが, 長い間歩くことは僕にとって困難でした。祖母はそのことについて聞いて僕に電話をかけてきました。祖母は「この夏, 私に会いに来る必要はないよ。たぶん次の機会におたがいに会えるだろうから」と言いました。しかし, 僕は旅行をあきらめたくありませんでした。すると, 父が僕に車いすを用意してくれました。それを使うことは僕にとって難しくありませんでした。和也は父に「僕が聡志を手伝って, 押すよ。心配しないで」と言いました。母は「それを聞いてうれしいわ」と言いました。

駅や公園, 店のような, 多くの公共の場所にはスロープやエレベーターがあったので, 僕たちの旅行を通して車いすはずっとうまく機能しました。しかし, 僕たちにはいくつか問題がありました。車いすからでは, 僕の見え方は本当に違っていたのです。僕は自分が小さな子どものように感じました。いつも見上げていて, とても疲れました。僕たちが混みあった場所に行ったとき, 簡単に通り抜けることができなくて, 僕はこわかったです。僕は「これらの人たちは, 車いすの男の子がここにいるとわからないのだな」と思って, 「すみません! 車いすが通ります」と大声で言いました。すると, 僕を見る人たちもいました。彼らのうちのある人は僕たちに「ああ, ごめんなさい。大丈夫?」と話しかけました。車いすのことで僕たちを手伝ったり, 僕たちを正しい方向へ連れて行ったりしてくれる人たちもいました。僕は「ありがとうございます」と言い,

「どういたしまして。よい一日を」と言ってくれる人たちもいました。最初は、人々は親切ではないのだと僕は思いましたが、今は、彼らは和也と僕に気づかなかっただけだとB わかります。

和也と僕にとって、鹿児島への旅行は今年もすばらしいものでした。和也は父と母に「僕たちのまわりには困っている人たちがいるんだね。彼らは僕たちのすぐ隣にいて、僕たちの手助けを必要としているかもしれないね」と言いました。僕は、弟は正しくて、それは大切なことだと思います。この旅行を通してそのことを学んだので、僕たちはうれしかったです。

1 A 空所を含む文は、「あなたは昨年そこで大きな魚を捕まえました」という意味。よって、「～を捕まえる (得る)」という意味を表す動詞 get の過去形 got が入る。

B 空所を含む文は、「最初、私は、人々は親切ではないと思いましたが、今は、彼らは和也と私に気づかなかっただけだとわかります」という意味。「～がわかる」という意味を表す動詞 know が入る。

AとBの組み合わせから、両方に適当なものはAとわかる。

2 英文は、「私は自分が小さな子どものように感じました」という意味。聡志がこのように感じた理由を考える。車いすを使うといつもと視界が違ったということについて話している部分のウに入れるのが最も適当。

3 問いは「聡志の両親は今年の夏、鹿児島に行きましたか」という意味。第1段落1～3行目を参照。聡志の家族は毎年夏に鹿児島に行っていたが、今年は和也と聡志だけで行った。

よって、

→ No, they didn't. (3語) と答える。

4 下線部の直前の1文をまとめる。

5 (a)前半 「私たちは自分たちのまわりの人たちのことを考えなければならない」

①文の種類：肯定文「～する」

②時制：現在

③主語：私たち

動詞：考えなければならない

主語は we を使う。「考えなければならない」は have to と動詞 think を使って have to think で表す。「自分たちのまわりの人たちのことを」は about people around us で表す。

(a)後半 「と、私は思います」

①文の種類：肯定文「～です」

②時制：現在

③主語：私

動詞：思う

主語は I, 動詞は think を使う。

前半と後半をつなげると、

→ I think (that) we have to think about people around us.

となる。

have to の代わりに助動詞 must を使って、

→ I think (that) we must think about people around us.

としてもよい。

(b)前半 「私の手助けが必要なときには」

①文の種類：肯定文「～です」

②時制：現在

③主語：あなた

動詞：～が必要だ

「～のとき」は接続詞 when を使う。主語は you, 動詞は need を使う。「私の手助け」は名詞の help を使って、my help と表す。

(b)後半 「私に知らせてください」

①文の種類：命令文「～してください」

②時制：現在

③主語：なし

動詞：～させる

「私に知らせる」は〈let + (人) + 動詞の原形〉を使って表す。let のあとに me know を続ける。Please で始めてていねいな命令文にする。

・〈let + (人) + 動詞の原形〉 = 「(人) に～させる」

前半と後半をつなげると、

→ Please let me know when you need my help.

となる。前半と後半を入れかえて、

→ When you need my help, please let me know.

としてもよい。